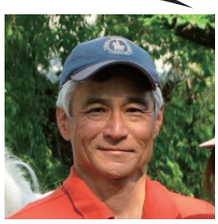
キーワードはNatural and Free

田中雅文の 外乗完全マニュアル



PROFILE
田中雅文

「海外乗馬ツアーを通じ、世界の馬文化を研究する」フリーダム・ライティング・クラブ（FRC）代表。世界各地での外乗歴は40年超。オーストラリアでエンデュランス、英国でTREC、アメリカでCompetitive Trailを学び、これらの日本での普及活動を続けてきた。エンデュランスでは2005年ドバイ、2008年マレーシア世界選手権日本代表チームの監督を務めた。山梨県小淵沢で外乗中心の乗馬施設「FRC小淵沢」を運営、「裸馬騎乗会」などユニークな指導を行なっている。著書に、日本語で書かれた唯一のエンデュランス教本『完走することが勝つこと（正・続）』（(社)北海道うまの道ネットワーク協会）がある。本誌には20年以上にわたり、さまざまなテーマで執筆を続けている。

第5回 Stand Still！（じっと立っていろ）

馬に乗るとつい、いかに走らせるかということに一生懸命になりがち。
しかし、同じ場所でじっとさせていることも、重要なテクニックのひとつです。
加えて、普段当たり前のように使っているハミ。これはどんなシーンでも
どんなレベルのライダーにも本当に必要なものなのか、考えてみましょう。

文・写真＝田中雅文（フリーダム・ライティング・クラブ代表）

馬を静止できなかったら、歴史は変わっていた!?

繋がなくてもじっとさせる これは基本中の基本

一人で外乗に出かけた時、何らかの理由で馬を下りてその場を離れなければならないことがあったとします。あなたの馬はどこかに繋がなくても、その場を離れずじっとしていますか？

馬のしつけという点では、じっと立っていられるかどうかは、基本中の基本です。ライダーが下馬して手綱を放すや否や、馬がすぐにどこかに行ってしまったら大変です。たとえば、中世の戦場。乗り手が落馬した時、あるいは下馬して武器を手に敵と戦おうという時、馬があっという間に走り去っていたら、馬は人間のパートナーとして、歴史をつくることができたとは思えません。

カウボーイの場合はどうでしょう。カウボーイは馬で牧場を巡回し、壊れている柵があれば下馬して直す、仔牛に焼き印をつけるといった作業のたびに上馬、下馬を繰り返します。ですが、毎回馬をどこかに繋げるとは限りません。ライダーのそばを離れず、一定時間じっと立っていられる馬でないと、仕事には使えないのです。

読者の中に、中世の戦士やカウボーイはほとんどいないと思います。しかし趣味で乗馬を楽しむ時でも、馬が一定時間じっと立っていられることは、非常に大切なのです。

「静止（Immobility）」も TRECの課題のひとつ

前回（本誌2018年７号58ページ）では、野外騎乗の技術を競うTRECについてふれましたが、「静止（Immobility）」も課題のひとつです。ルールブックでは、

馬を静止させることは、乗馬の基本。

「待て！」と手で合図。

距離を開けて練習。

次のように定められています。

【静止（Immobility）】

◇概要

この課題は平らな地面の上に描かれた２つの同心円を使って行われる。馬は内側の円の中に立ち、ライダーは外側の円の外に立つ。

・内側の円：直径４ｍ
・外側の円：直径８ｍ

放馬を避けるため、周囲を柵で囲むことが望ましい。

◇目的

馬の落ち着きと従順さを見る。

◇採点

馬が内側の円の内側、ライダーが外側の円の外側にいる1秒ごとに1ポイントとする。

最高10ポイント。10秒の終了はジャッジが知らせる。

外側の円の外にいるライダーは、馬に声と手による動作で指示を出すことができる。

参考：国際ルールでは声で指示を出せるが、動作や道具による指示は許されず、違反した場合はそこで時計を止め、そこまでの時間がポイントとなる。

◇介入

内側の円を出た馬のところにライダーが近づくことは、介入とみなす。

介入０回：10ポイント（最高）
介入１回：７ポイント（最高）
介入２回：４ポイント（最高）
介入３回：０ポイント

TREC競技が本課題の「目的」に掲げているように、馬がじっと立っていられるかどうかは、馬の落ち着きと従順さをみる目安です。と同時に、人と馬の信頼感を図る目安でもあるのです。

「待て」の教え方は犬と同じでも、その10倍は根気よく

犬を飼ったことがある人はたいてい、「待て！」を教えたと思います。エサを前に犬にお座りさせ、「よし！」というまで我慢させる訓練です。

馬も、犬と同じやり方で訓練します。

まずライダーは、静かな場所で馬と対峙します。リードか手綱を鞍にかけたら、馬に「待て！」と声をかけて手で静止の合図をします。「待て！」の代わりに、英語で「Stay!」「Wait!」「Stand still!」でも構いませんが、言葉はひとつに決めてください。理解できるまで何度も指示を出し、少しでもできたらすかさず褒めます。

ライダーは馬の顔から目を離さず、少しずつ後退します。10秒間、馬がじっと立っていられたら、馬に近づいて馬を褒めましょう。

普通の馬であれば案外短時間で覚えますが、犬よりは根気が必要です。犬の10倍の時間をかけるつもりで行いましょう。

静かな馬場でできるようになったら、次は環境を変えて練習します。馬場内にほかの馬を入れる、エサの乾草を離れた場所に置いておくなどの細工を施します。なぜなら、群れの動物である馬は、仲間がいるほうに行きたがるからです。エサがあれば、当然そち

馬を円の内側にじっと立たせる。円の外側には美味しそうな牧草が……。TREC全欧選手権での様子。

らに行こうとします。それでも、あなたの指示に従ってじっと立っていられるように訓練するのです。

英国で、TREC全欧選手権を見学した時のこと。全欧レベルになると、ほとんどの馬はこの課題を難なくこなします。そのため、難易度を高める工夫なのでしょうか、馬が立つ直径４mの円の内側は土ですが、外側にはおいしそうな牧草が生やしてありました。馬は牧草の誘惑を断ち切り、ライダーの指示に従って一定時間、円の内側に立っていなければならないのです。

ハミは人と馬の歴史における大発明だが、外乗には不要？

私が管理しているFRCの馬には、ハミを使っていません。馬は、オーストラリア産のアラブ種です。ハミなし頭絡（Bitless Bridle）、ロープホルター（Rope Halter）などを使うか、無口にリードロープを１本つけただけで乗ることもあります。

以前はハミを使用した馬もいましたが、ハミがないほうが馬がおとなしく従順になり、うまくコントロールできることが分かりました。以来、ハミは一切使っていません。

きっかけはエンデュランスです。私は20年前、オーストラリアでエンデュランスを始めました。日本とはさまざまな違いがあって驚きの連続でしたが、そのひとつがハミです。多くの人がハミを使わず、簡単なロープホルターで競技に出ることでした。

出場選手たちは、「エンデュランスの馬は１日中、長距離を走らなければならない。少しでも負担を軽くするために、重い金属のハミは使いたくない。馬はコース上でも草を食べたり水を飲んだりしなければならないし、ハミは邪魔なんだ」というのです。

「不整地を走る際、ハミがないほうが馬はバランスを取りやすい」といった人もいます。この人は、エンデュランス全豪チャンピオンでした。

人が馬を思いのままに制御しようと試みた歴史の中で、ハミは最大の発明だといわれています。

カザフスタンの遺跡から出土した紀元前3500年頃の馬の歯には、ハミ痕が残されています。これは当時、すでに馬の家畜化が行われていた証だとか。アブミや拍車の発明よりはるかに前です。

ハミのおかげで、騎手は細かい扶助を、口という非常に敏感な器官を通じて馬に伝えることが可能になり、複雑な運動や制御ができるようになりました。馬は、人が命を託す「乗り物」にもなり、馬術競技も成立したといえるでしょう。

馬をコントロールするために、非常に重要なハミ。これを使わないとは、よほどの上級者でなければ無理だろうと思いつつも、私は海外のエンデュランスライダーにならい、自分のエンデュランス馬にもハミを使わないようにしてきたのです。

その後、日本で外乗のガイドをしたり馬場内で指導するうちに、はたと気がつきました――ハミなしで乗るべきは、エンデュランスライダーとは限らない。上級者ではなく、むしろ初級者なのではないか、と。

なぜならハミは、新馬の調教段階や、上級者が馬術競技で馬を複雑にコントロールする場合を除き、ないほうがいいという考えに至ったからです。

初心者ほどハミもコブシも使わないほうがいい

私は、以前の連載「目からウロコの“非常識”上達法」第９回で、「コブシを忘れろ」ということを主張しました（本誌2017年７号）。騎座が安定せず、馬と一緒に動けない間は、コブシを自由に使えないからです。ただでさえバランスが悪くて体がぐらついているのに、コブシにばかり意識がいくと、体がさぼりがちになります。器用に動く手だけに頼るのではなく、全身の感覚を研ぎ澄まして、まず騎座の安定を目指しましょう、とお伝えしたのです。

ハミにも同じことがいえます。

ライダーの手がバタついたり、姿勢をうまくコントロールできなければ、ハミは馬の口の中でガチャガチャ動く

ハミなし頭絡。

ロープホルター。

無口にリードで騎乗。

だけ。あなたが馬だったらどう感じるでしょう。口の中で重い金属の棒をくわえさせられ、その棒についたヒモをむやみやたらと引っ張られる……これほど不快なことはありません。ハミの形状によっては舌をはさんだり、口の中を傷つけることもあるでしょう。

苦痛を感じた馬は、反抗するか我慢して鈍感になるかのどちらかです。ライダーとの絆は、いつまで経っても築けません。

ハミにはさまざまな種類があります。中央にジョイントがついたもの、唇の下にくる部分にねじった鎖があるタイプ、てこがきくように長くつくられたものなど。これほどまで多くの種類があるのは、あるタイプのハミでは馬のコントロールがきかないと分かるごとに、別の形状のハミを開発していった結果かもしれません。

ハミは、そのほとんどが金属製です。最も馬に優しいといわれるタイプのものでも、使い方によっては馬に苦痛を与え、不快な思いをさせる場合があるのです。

馬をコントロールするには、人馬の間に信頼関係を築くことが一番。そのためにはいかなる苦痛、不快感も与えてはなりません。

きちんと調教ができた馬に乗り、馬に応じてロープホルターやハミなし頭絡などを適切に使えば、ハミなしでも外乗に行けるのです。

――Be Natural and Free ！

乗馬にはハミが必須、ではない。

INFORMATION

FRC小淵沢の裸馬騎乗会&クリニック

当連載筆者・田中雅文さんの裸馬レッスン、野外騎乗やエンデュランスについてのクリニックが好評開催中です。八ヶ岳南麓の外乗も併せてお楽しみください。

［ADD］山梨県北杜市小淵沢町10101 FUJII STABLE内
［E-mail］frc.kobuchizawa@gmail.com
［URL］www.frckobuchizawa.com
〈Facebook〉www.facbook.com/frckobuchizawa
【 車 】中央自動車道［小淵沢IC］から5分
【電車】JR中央線特急で［新宿駅］から［小淵沢駅］まで2時間。
駅からタクシー 5分